

今だから、読んでほしい 大学教員が選ぶ図書 2025

生物科学科

石川 裕規先生

【LIFESPAN】

老化研究で活躍する著者が「老化は治療できる」と主張する一冊です。最新の研究成果をわかりやすく紹介しながら、150歳以上の健康長寿が実現可能であると推察しています。長寿社会に伴う倫理的な問題にも触れつつ、それでも長生きの素晴らしさを前向きに伝えている点が印象的です。著者が実践しているアンチエイジングのための生活習慣も紹介されていて参考になります。最先端の生命科学の魅力を味わえるだけでなく、高齢化社会の明るい未来を感じさせてくれる内容です。

柳川 綾先生

【ソロモンの指環】

日本の動物行動学会の創設者は昆虫学者でした。日高敏隆先生の生き物への愛にあふれる訳で、当意即妙な動物たちとローレンツ博士のやり取りを通して、素朴で精緻な生き物たちの不思議に触れることができる一冊です。今日、あなたの家の近所でも繰り広げられる愛くるしい命の物語に思いを馳せることができる色褪せない古典の名著です。

岡田 悟先生

【科学的思考入門】

「なんとなく正しそう」に流されていませんか？本書は、因果関係・認知バイアス・反証可能性など、科学的思考の基本を解説し、曖昧な情報に惑わされない「考える技術」を身につけさせてくれます。身近な話題や具体例を通して、堅苦しい理論を日常に引き寄せてくる「ふだん使いの科学」の一冊です。文系・理系を問わず、情報社会を生き抜くために必要な「考える力」や「疑う視点」を養いたい大学生にとって、心強い手引きとなるでしょう。読み終えたとき、日々の情報との向き合い方に変化が生まれているかもしれません。

塩田 誠先生

【食の歴史】

著名なフランスの経済学者ジャック・アタリ氏の2020年の著作です。本書では先史から現代までの人類の歴史を食の側面から記述しており、食が単に生命維持のためだけでなく、権力、社会構造、経済といった要素と深く結びついてきたこと、世界の食文化の違い、およびその経緯などを考察しています。現代食の栄養面、食糧危機といった顕在化しつつある課題と培養肉、食の個別化、農業などの新たな食への提言があり、社会学から栄養学まで幅広い情報に基づき網羅的にかつ論理的に論じていますが、文章は分かりやすく、教養書として学生に薦めたい書籍です。

高橋 重一先生

【銀の匙】

僕が中学生だった頃のとある夏の日のことです。通っていた塾の定例試験でとつもなく美しい文章の小説問題に出会いました。あまりの衝撃に解答なんかどうでもよくなり、何度も読み返しているうちに終了時間に。当然0点でしたが大変満足して家に帰りました。作者も題名もわからないまま月日が経ち、あれは夏の日の幻想だったのだろうか、とすら思うようになった頃、歌人であった大叔母から、これは良いものだから、と一冊の文庫本を渡されました。それが「銀の匙」。あの日僕を震わせた小説でした。理系の学生にこそ手に取って欲しい、純文学の傑作です。

村上 千穂先生

【ゴキブリ・マイウェイ】

クチキゴキブリという、一見、女性にはおどろおどろしい昆虫に魅せられた若い女性研究者のエッセイである。著者が、クチキゴキブリの雌雄が翅を食い合っている様子を撮影し、それをいかに論文化するか？を真剣につづったエッセイである。クチキゴキブリを採取し、育て、観察し、研究するために様々な問題を真剣に解決していくのだが、客観的にみると如何にも滑稽である。しかし、「論文を書く。それが、客観的に研究者を研究者たらしめていると言っていい。」という筆者の言葉は、これから研究をしたいと考えている学生におすすめの一冊。

武田 征士先生

【スーパーフード！ 昆虫食最強ナビ】

何かと話題になる昆虫食。高タンパク質、不飽和脂肪酸、美容にもうってつけの新食材を、女性目線で紹介する、ビギナーからプロまで楽しめる本。食用昆虫の紹介、文化、レシピ、キャッチアンドイートや保存の方法など、今日から昆虫食を試したいあなたにうってつけ。一度食べれば世界が拡がる、そんな昆虫食の世界へあなたを優しくガイドします。

岡田 悟先生

【ハーモニー】

本書は、近未来の健康管理社会を舞台にしたフィクションです。予防医療が徹底され、飲酒や喫煙といった行為すら「逸脱」とされる世界で、人間の自由や個性はどうあるべきかが問われます。科学技術の進歩がもたらす倫理的ジレンマの中で、自己決定や集団と個人の関係など、生物倫理と深く関わるテーマが浮かび上がります。生物科学を学ぶには、知識だけでなく、価値判断への想像力や倫理的な視点も欠かせません。『ハーモニー』は、それらを考えるきっかけを与えてくれる、刺激的で示唆に富んだ一冊です。

高橋 重一先生

【超常現象をなぜ信じるのか】

僕がまだ何者でもなくフラフラしていた十八、九の頃、フルートを奏でる高校時代の先輩(女性)から、少し話があるんだけど…と二駅先のパスタ屋に呼び出された時の話です。会話と食事を楽しんだ後、紅茶に口をつけようとしたその瞬間、「これを受け取って欲しいの」と手渡されたのが本書です。人は体験から推測を行うことが得意な一方、思い込みによる勘違いも起こします。コレ、特に理系の学生は避けたい事柄ですよね。本書はそうならないための考え方・捉え方を示してくれます。そして、あの日の僕はすっかり思い込み・勘違いをしていたようです。

長沼 毅先生

【サピエンス全史(上・下)】

僕は何事についても「起源」と「未来」に興味があります。宇宙の起源と未来、地球の起源と未来、生命の起源と未来など。生物学いえば、飛びつきのテーマはやはり人間「ヒトという生物種」の起源と未来でしょう。ヒト、すなわちホモ・サピエンスの起源と未来を論じた本の日本語版が2016年に出版され、その文庫版が2023年に出ました。内容についての吟味は『『サピエンス全史』をどう読むか』(河出書房新社)に書きましたので繰り返しませんが、「ヒトという生物種」を深く理解するための入り口としては絶対にオススメです。